

1 主題設定の理由 ～なぜPTCA活動か～

本校は校舎北側には烏帽子岳、校地の側には島田川の分流である石光川が流れる、「山高く、水清し」豊かな自然に恵まれた学校である。開校138年の歴史をもち、明治時代の高水村塾時代からの教えである「楽学」の精神を脈々と受け継いでいる。地域住民の郷土に対する誇りは高く、地域・保護者の小学校に対する思いも熱いものがある。

そのような恵まれた環境の中で、全校児童104名は、日々充実した学校生活を送ることができている。子どもたちは純朴で、礼儀正しく、何事にも一生懸命取り組むことができる。

保護者も大変協力的で、これまでの先輩保護者が構築されてきたPTA活動に献身的に取り組んでくださる。また地域住民も学校に協力的な方が多く、快く学校支援の手を差し伸べてくださる。

これらの協力的なPTAや地域（学校運営協議会を中心としたcommunity）の存在は、本校最大の強みであり、両者の活動を有機的につなげ、協働的なものにする活動を推進していくことで、高水小ならではの教育を展開できるのではないかと考えた。

2 PTCA活動推進による予想される効果

(1) 子どもたちへの豊かな学びの提供

子どもたちの学びは教室に限るものでなく、様々な環境・人・ものを工夫することにより、無限に広がっている。高水地区の豊かな自然環境、協力的なPTAと地域住民との関わりを通じて学ぶことで、子どもたちの高水地区に対する郷土愛や周囲の人々への感謝の気持ち、高水地区に対して何ができるかを創造する社会貢献への意欲などを醸成することができるのではないかと考えた。

(2) PTA活動の変革・改善

昨今の社会課題の一つとして少子化があげられている。この問題は高水小も例外でなく、令和元年度が130名あまりだった全校児童数も令和5年度には96名となる予定である。当然家庭数も減少する中で、従来のPTA活動のあり方に見直しを図ることが喫緊の課題となっている。専門部数の見直しや活動内容の精選などを進めているが、そのPTA活動に地域（コミュニティ）の力を注入することができれば、PTA活動の充実と活動改革にもつながり、大きな助けになるのではないかと考えた。

(3) コミュニティの生きがいの醸成

地域住民から「学校への関わり方が分からない」「私みたいな者が学校に行っているのか」と言った意見を耳にすることがあった。以前から「学校に行こうでい」と銘打ち、毎月15日に学校を開放する取組を継続していた。しかしながらこの3年間、コロナ禍の影響もあり、来校者数はこちらが期待するほど伸びなかった。そこで、PTA行事の日にコミュニティの協力を得る形にすることで、目的が明確になり、コミュニティの方々の参画意識や満足度も高まるのではないかと考えた。

3 活動記録

(1) 芋の収穫体験

一昨年まで一部の地域住民のご厚意とご尽力で、「芋の苗植え」と「芋掘り」をそれぞれ春と秋に子どもたちに体験させることができていた。課題として、一部の地域住民の負担が大きく、年々高齢化が進む中でこの活動自体を持続可能なものに変えていく必要があった。

そこで昨年度から、PTCA活動の一つとして、PTAとコミュニティと子どもたちが一体となって、芋の苗植えから収穫までに関わることにした。

4月2日・・・種芋植え、ビニールかけ作業

PTA、コミュニティ、児童からボランティアを募り、4月初めの土曜日に作業を実施した。種芋を育てるという最初の過程に携わることは初めての経験という児童、保護者がほとんどで様々な発見があり、とても貴重な体験になった。また、保護者にとっても、芋づくりの大変さと感謝の気持ちを改めて感じる事ができた。一部の地域住民にとっても、多くのPTAや子どもたちが作業に携わることで、作業負担の大幅な軽減と芋づくりのやりがいを直に感じる事ができた。



6月4日・・・苗植え事前準備、マルチかけ作業

これらの作業にもボランティアを募り、保護者、コミュニティ合わせて20名ばかりで作業した。これも多くの人が関わることで、一人ひとりの作業負担が軽減された。また4月の作業に続いて参加したPTAとコミュニティの間で、様々な会話が生まれ、共に作業する者同士の仲間意識が芽生えてきた。



6月23日・・・芋の苗植え

3学年をグループにして（6年と1年と3年、5年と2年と4年）2時間に渡って芋の苗植え作業を行った。コミュニティの方々に苗植えの指導をしていただき、多くの保護者も子どもたちと共に作業に参加した。



11月10日・・・芋掘り準備 芋のつる切りと運搬

ボランティアの保護者、コミュニティ、教職員で実施した。繁茂した芋づるを切る作業は大変で、すべての作業を終えるのに約2時間かかった。軽トラック20杯分の芋づるを取り出し、後日の芋掘りに備えた。この作業を昨年度からPTCAで実施するようにした。昨年度の反省を生かし保護者の人数を増やした結果、昨年度よりは短時間でできた。来年度は、児童も



参加して、さらに一体となった取組にしていきたい。

1 1月15日…芋掘り

3学年をグループにして（6年と1年と3年、5年と2年と4年）2時間に渡って芋掘り作業を行った。コミュニティの方々に芋掘りの指導をしていただき、多くの保護者も子どもたちと共に作業に参加した。高学年が低学年の子どもたちに優しく教えてあげる場面も多く見られた。また、作業を通じて、保護者、コミュニティ、児童がふれあうことができ、親睦を図ることもできた。



1 1月26日…楽学のつどい（焼き芋づくり）

楽学の集いにおいて、PTAによる焼き芋づくり、配付が行われた。石焼き芋用の備品を2台レンタルし、早朝よりPTA執行部並びに有志の方々が作業に加わった。児童が下校する際に、小袋に分けられた焼き芋を受け取り、持ち帰った。コロナの関係でその場で食することはできなかったが、児童にとっては家族に渡すうれしいおみやげになった。

(2) PTCAによる環境整備作業

今年度は、保護者から環境整備ボランティア「楽学の会」の会員を募り、8名の保護者が参加した。楽学の会の保護者、教職員、コミュニティが連携して5月、7月、9月、10月と定期的に草刈りや樹木の選定を実施してきた。

環境整備作業をとおして保護者とコミュニティ、教職員がふれあう機会が増え、新たな交流も生まれた。

5月22日…校地北側垣根剪定

7月24日…校地南側法面草刈り

9月 4日…校地南側法面草刈り

10月 8日…前庭樹木剪定



(3) キウイフルーツ収穫体験

コミュニティの紹介で、11月24日に地域の方に6年生児童がキウイフルーツの収穫体験をさせていただいた。収穫しきれなかったキウイを全てとってよいということで、コンテナ10杯以上のキウイを収穫することができた。初めて体験する児童も多く楽しく作業をしていた。収穫したキウイは、全校児童に配付した後、楽学の会で焼き芋と共に保護者にも配付し、大変喜ばれた。



(4) エコ・リサイクル・クラブ発足

コミュニティからの発案で、不要になった学用品、制服、体操服等を集め、必要とする人へ譲渡する「エコ・リサイクル・クラブ」を立ち上げることになった。1月に案をいただき、規約をつくり、PTA役員の承認も得て、3月頃から実施する予定である。PTCA活動活性化の一つの成果であらわれである。

4 成果と課題

(1) 成果

今年度も芋づくりや環境整備作業に今まで以上に多くの児童、PTA、コミュニティが関わることでできたことにより、子どもたちにとっては、PTAやコミュニティの方々への感謝の気持ちを新たにするとともに、自分たちにも何かできることはないか、考えるきっかけにもなった。

また、PTAにとっては、コミュニティの活動に携わることで、子どもたち同様感謝の気持ちを抱くとともに、コミュニティと協働する喜びを肌で感じることもできた。

そして、コミュニティにとっては、芋づくりや環境整備作業を通じて、子どもたちやPTAを支援することにやりがいを感じ、新たな「エコ・リサイクル・クラブ」の取組にもつながっていった。

(2) 課題

子どもたちや保護者は、学校生活の様々な場面で地域の方々に支えられていることを実感している。そのことに感謝の念を抱きつつも、自分たちが地域の人たちに対して何ができるのか、地域貢献のあり方を模索している段階である。今後は、児童が主体的に地域に貢献できるような機会を設けていけるよう地域連携カリキュラムの見直しを図っていきたい。

最後に、このような研究の機会を支援していただいた山口県教育会に、心から感謝申し上げます。ありがとうございました。